

あいであ & アイデア

臼井さん家の発明品第2弾 蹄病治療・削蹄時の保定がラクラク「フットリフト」

一般社団法人 岐阜県畜産協会 原 健 治

はじめに

岐阜県大垣市の酪農家・臼井節雄さんが「飼料用米破砕機」(本誌・No.269)に続く発明品を開発しましたので紹介します。

牛の蹄病や削蹄の際の牛の保定をどのように行っていますか。何方向からもロープで縛ってという方法が多いかと思います。しかし、いざ治療しようと蹄を触ると、牛が嫌がり足を動かすので治療がうまくできない。挙句の果てにロープが外れてしまうなんて経験はありませんか。

臼井さんが今回開発した「フットリフト」は、そんな心配がすべて解消される優れたものです。

開発のきっかけ

以前から、肢蹄の治療等をする場合に足をなかなか固定することが難しく、最後にはチェーンブロックまで準備して、大げさになってしまうことがしばしば。「何とか一人で簡単に肢蹄の治療、巻き爪をなおすことはできないか」との思いから、今回の開発を思い立ったようです。15年ほど前にもV字型保定器を考えたようですが実現しなかったため、再度、そのアイデアから大幅に改良を加えて実現させました。

フットリフトのスペック

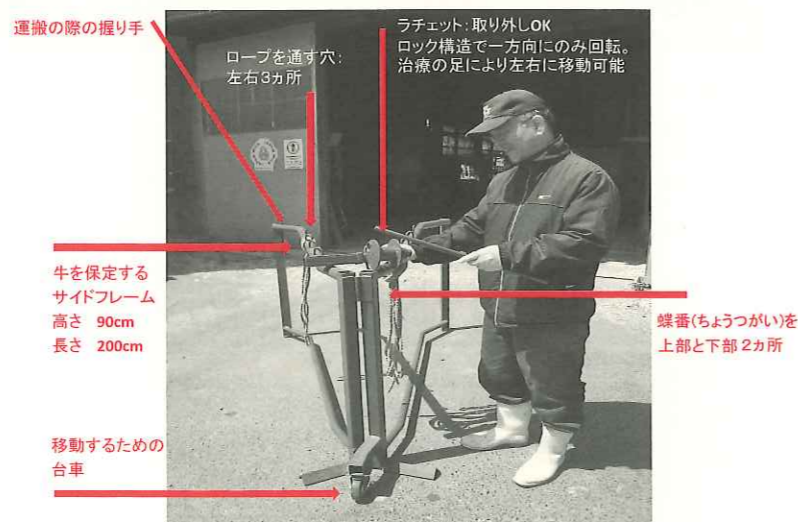
フットリフトの全容は写真1の通りです。

フレームはV字型、先頭に移動のための車輪が付けてあります。

フレームの高さは90cm、長さは台車の先までで200cmです。

左右のフレームにはロープを通すフックが3つ付いています。この穴の位置で肢蹄の上げ方を調整できます。

また、本体は折りたたむため、



(写真1) フットリフトの全容

ラチェット: 取り外しOK
ロック構造で一方にのみ回転。
治療の足により左右に移動可能

ロープを通す穴:
左右3カ所

運搬の際の握り手

牛を保定する
サイドフレーム
高さ 90cm
長さ 200cm

移動するための
台車

蝶番(ちょうつがい)を
上部と下部2カ所

ストール牛舎の狭いところでも持ち運ぶことができます。

フットリフトの特徴

- ①大型の保定器と異なり、運搬・移動も1人でできます。
- ②ストール牛舎で牛の移動をしなくても、ストールの後ろに運び込めます。
- ③ロープを通すフックが左右に3個付いていることから、牛の大きさにより、フックを選択できます。また、肢蹄の上げ方を調整できます。
- ④V字フレームとしたことにより、肢蹄を上げた際に牛体(腰周辺部)がフレームで支えられ、牛体が安定します。
- ⑤下のフレームの高さは10cmとし、削蹄師さんが爪を切り落とす際にフレームが邪魔にならないように配慮してあります。削蹄師さんが購入され、実際に利用されているようですが、「削蹄作業が大幅にはかどる」との感想をいわれたとのことでした。
- ⑥実際にフットリフトを利用していただきましたが、1頭で運搬、設置、治療、後片付けまで15分ぐらいで終わることができました。
- ⑦一番の特徴は、安全に一連の作業を行うことができる事です。

利用手順



①フットリフトを牛の後ろに設置



②牛の肢蹄をロープで縛り、ラチェットで巻き上げる



③フレームに固定された後肢、蹄底がしっかり見える



④後肢を持ち上げて、固定している様子



⑤ラチェットの拡大写真



⑥横からみたフットリフト



⑦フットリフト前景、ラチェットと回転棒を分離したところ

詳しくは「ウスイプロジェクト」のホームページで動画を開示しておりますので、一度確認してみてください。ホームページアドレス：<http://usuiproject.com/product.html>

(筆者：一般社団法人 岐阜県畜産協会 畜産指導部部長)

あいであ & アイデア